

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24700623

研究課題名(和文) 舞踊記述法の導入によるリズムダンス教育の系統化と新規授業モデルの開発

研究課題名(英文) Development of a New and Systematic Educational Rhythmic Dance Methodology Using Language of Dance

研究代表者

三戸 治子(酒向治子)(MITO(SAKOU), Haruko)

岡山大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：70361821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：LODは特定のジャンルやスタイルの動きではなく、動きの基礎的要素を取りあげる。難易度も決して高いものではない。LODの理論および実践的研究から、中学校でダンスが完全必修化された今、LODは教材として高い可能性を有しているということが示唆された。「ロック」「ヒップホップ」のリズムに関しても、「5本の足型」という同じ動きの学習を通して行うことで、その音楽的な違いが体感しやすくなることが想定された。

研究成果の概要(英文)：LOD, the Language of Dance, provides framework for learning about basic movements. It deals with the simple actions compared to the highly stylized movements. From the results of theoretical and experimental/practical researches, LOD has the potential to clarify, organize, support, and enhance the work and aims of movement educators leading to movement/dance literacy. As for the rhythms of "Rock" or "Hip-hop," students seem to understand and learn well the differences between the rhythms by moving the "the five basic forms of springs (from two feet to two feet, from one foot to the same, From one foot to the other, From one foot to two feet, From two feet to one foot)."

研究分野：総合領域

キーワード：教育学 授業研究 舞踊 ダンス

1. 研究開始当初の背景

研究開始の段階において、2012(平成24)年度からの中学校1・2年生ダンスの男女必修化完全施行に伴う学習内容と指導方法の整備が喫緊の課題となっていた。中学校保健体育科「ダンス」領域は、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の三つの柱から構成されるが、特に生徒の身近なリズムで踊る「現代的なリズムのダンス」に寄せられる期待が大きいと考えられた(中村、2009)。しかし一方で映像教材を用いた振り出し授業の増加やエアロビックダンスを多用するなど、学校現場における「現代的なリズムのダンス」をめぐる学習内容の誤解は指摘されていた(成瀬・寺山、2011)。これは、第一に「現代的なリズムのダンス」に関しては創作ダンス教材(課題学習)と比べて研究的蓄積が少ないことが関連している。さらに、より根幹的な問題として、動きの選択の幅が広いがゆえに「なにを、どう教えるか」という点が不鮮明になりやすく、その結果教員個人の運動(ダンス)経験と知識によって学習内容が大きく左右されてしまうということが挙げられる。曖昧になりがちな動きを整理し、系統的な学習内容と指導法を構築することが早急に求められていると考えられた。

LOD(Language of Dance;ダンスの言語、略称 LOD)はルドルフ・フォン・ラバンの身体理論に基づき、人間の動きを動詞(主要は16種類の動作)・副詞(動作の質)・名詞(身体部位)からなる言語とみなす、体系化された身体の記号システムである。音楽でいえば楽譜に相当する記号であり、動きの譜面を用いながら動きの「読み・書き」(リテラシー)能力を養うことを目指す。この記述法による身体表現教育が近年欧米を中心に注目を集めている。しかし、こうした状況にも関わらず、学術研究的には萌芽的段階にあった。LODアプローチによる指導実践例などは各地で報告されていても、包括的な分析や理論的な考察を行った研究は少ない状況にあった。このような中、本研究者は世界に先駆けて本格的な LOD の理論と実践研究に着手し、LOD 実践例の収集と分析(酒向、2004/森田・酒向、2008)、大学生および幼児を対象とした LOD を導入したパイロット的な教育モデルの開発(酒向、2008/国際学会 Sako、2011)を行った。

2. 研究の目的

本研究では、上述のこれまでに得られた知見をもとに、LOD を「現代的なリズムのダンス」の授業づくりに採り入れることで、学びの系統性をもった授業プログラムの開発を試みることにした。

3. 研究の方法

本研究では、以下の理論と実践の両面からの研究を行った。

(1) 理論研究

質問紙調査：授業立案の土台となる現状を把握するべく、教育現場の指導者(現職中学校教員)および中学生を対象としたダンスイメージ、ダンスへの態度(好感度や取り組みへの態度)に関する質問紙調査を行った。

LOD 日本語表記の整理：身体表現教育プログラム開発にあたって英語から日本語への語彙の整理を行うことが必須であった。このため、国内外の LOD 専門家とともに、LOD の教科書である *Your Move: A New Approach to the Study of Movement and Dance second edition*(2008)(1983年初版の改訂版)の日本語に訳す作業を進めた。これにあたり、国内では日本語の共同翻訳者となる森田玲子氏、国外からは *Your Move* の著者である A.H. ゲスト氏、イギリスの LOD 指導者である V. ファラント氏の研究協力を得ることとした。

(2) 実践研究

授業づくりの方向性

A 中学校(岡山県中学校の事例)の1年生・2年生を対象に、LOD の要素を採り入れた「現代的リズムのダンス」の授業プログラムを創案し、実践を試みた。授業後に、授業づくり全体のプロセスを振り返り、実践内容と指導法を検討した。具体的には、リズムに乗って弾む手段として LOD における「跳ぶ(spring)」の「5本の足型」(両足で跳び両足で着地、片足で跳び同じ足で着地、片足で跳びもう一方の足で着地、片足で跳び両足で着地、両足で跳び片足で着地)に着目した。

研究データ

授業づくりを行う過程において、以下を主な研究データとした。

【生徒の反応】

- ・単元前後の質問紙調査データ、
- ・毎授業後に行う学習記録

【教師の意識】

- ・授業振り返り記録
- ・インタビュー記録

4. 研究成果

(1) 理論から得られたこと

研究結果は学会、学術雑誌で発表を行った。調査結果を総合すると、教員のダンス指導に対する抵抗感、また生徒のダンスに対する抵抗感は従来言われていたような「ダンスが女らしいから」というジェンダー・イメージに単純に帰結できないと考えられた。当たり前ながらこれまで検討されてこなかった、「どのような授業が抵抗感やジェンダー・イメージを変容させるのか」という視点から、授業の内容(教材、指導法)に詳しく迫った研究が重要な検討課題となることが明確となった。

ヒップホップを中心としたダンススタイ

ルは 1990 年代より爆発的な流行となり、TV 等で日常的に目にすることが多くなった。しかしそれゆえステップや技の習得を目指す技術習得型学習は、教師・生徒ともにダンスに対する心理的ハードルを高くしている可能性が想定された。そこで難易度が低く、かつ再構成しやすい動きを取りあげる必要がある。また、男女共習の場合は、男女双方にとって新しい動きに挑戦させることでジェンダー・バイアスから解放できる可能性があるという先行研究（佐野、2004b）からも、ダンス指導には従来の型にはまらない探求型の教材を模索する必要がある。LOD は特定のジャンルやスタイルの動きではなく、動きの基礎的要素を取りあげる。難易度も決して高いものではないことから、中学校でダンスが完全必修化された今、LOD は教材として高い可能性を有しているといえることが示唆された。「ロック」「ヒップホップ」のリズムに関して、「5本の足型」という同じ動きの学習を通して行うことで、その音楽的な違いが体感しやすくなることが想定された。

また、本研究では LOD の語彙を日本語に訳すという作業に継続的に取り組んできたが、その成果として LOD の教科書 *Your Move* の翻訳本『ダンスの言語』（2015）を出版した。本研究では、LOD の中でもとくにダンスと結びつきやすい「跳ぶ」という要素に着目したが、日本語訳が完成したことによって、その他の要素を教材化していく土台を整えることができた。

（2）実践研究から得られたこと

- ・リズム系教育プログラム以下を核とする

ロック（中学校1年生対象6～10時間）「5本の足型」を段階的に学び、学習者が互いに発表・交流する形まで指導する。

ヒップホップ（中学校2年生対象6～10時間）1年生でロックを行った後、より身体によるリズム取りが難しいヒップホップに挑戦。この時に1年生の時に学んだ「5本の足型」をヒップホップのリズムに乗る段階的に学び、学習者が互いにダンスバトル・交流する形まで指導する。

定型ダンス（白桃ロック）

学習者がウォーミングアップやイベントなどで円滑に「5本の足型」を学べるように、「白桃ダンス」という定型ダンスを考案。親しみやすいものとするべく、岡山県の特産である白桃をモチーフとした「白桃ダンス」とした（本研究は動きの振り付けを担当。専門家の協力を得て、音楽の制作も行う）。

（3）成果発表について

本研究の成果発表は、学会や学術雑誌のみならず、実践的な指導、授業モデルの映像化（DVD）、HPの作成、新聞・TVでのメディアにおける情報公開、という多様な形

をとった。以下、特に について主な概略を示す。

実践的な指導

実践的な指導は、小・中・高校・大学と教員に向けた実技指導を行い、ダンス指導に関する議論を行うと共に、未就学児童・小学生・中学生・高校生・大学生と幅広い年齢層を対象に指導を行った。

- ・中学校教員を対象にしたダンス指導者講習会（2012年および2013年8月：岡山県中学校体育連盟指導者講習会において指導を行った。

- ・小・中・高校の教員を対象とした教員免状更新講習（2012年、2013年、2014年8月：岡山大学）において指導を行った。

- ・未就学児童・小学生を対象にしたダンスイベントにおいて「白桃ダンス」の紹介・指導を行った。（2015年3月21日岡山県生涯学習センター「ぱるスマイル Day」の一環として「はくとんと踊ろうプロジェクト～白桃ロック～」）

- ・高校生を対象にしたダンス指導講習会（2013年11月：岡山市武道場）において指導を行った。

- ・保育士を対象とした実技講習会指導（2014年8月：鳴門教育大学）第63回全国幼稚園教育研究大会（徳島大会）において指導を行った。

- ・教員養成大学（岡山大学）での小学校教員を志望する学生の必修授業、または体育実技において「白桃ダンス」の指導を行った。

授業モデルの映像化（DVD&CD）

「白桃プロジェクト」を立ち上げ、定型ダンスである「白桃ダンス」のプロモーション映像および授業モデル（指導者が実践しやすいように指導法を含める）の映像、「白桃ダンス」のCDを制作し、岡山県内外の希望者に配布した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

酒向治子、永田麻里子、出原智波、角南順子、猪崎弥生、教員と中学生のダンスに対するジェンダー・バイアス、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、Vol.152、2012、pp.45-49.

猪崎弥生、酒向治子、永田麻里子、田中俊之・米谷淳、お茶の水女子大学人文科学研究、査読有、Vol.9、2012、pp.15-24.

酒向治子、永田麻里子、出原智波、宮本乙女猪崎弥生、中学生のダンスに対するイメージ 男女差の検討、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、Vol.153、2013、pp.97-102.

酒向治子、永田麻里子、出原智波、山口順子、猪崎弥生、中学生のダンスに対するジェンダー・バイアス、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、Vol.154、2013、pp.73-77.

酒向治子、永田麻里子、猪崎弥生、中学校女性体育教員のダンスに対する抵抗感と羞恥心について、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、Vol.155、2014、pp.109-113.

酒向治子、ダンス教育におけるジェンダー観の推移、ダンス授業におけるジェンダーを考える、査読無、2014、pp.13-27.

酒向治子、出原智波、平田麻里子、猪崎弥生、教師と教師教育者の協働による男女共習「現代的なリズムのダンス」授業づくりの試み 0 大学教育学部附属中学校の事例的研究、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読無、Vol.158、2015、pp.169-181.

〔学会発表〕(計 7 件)

猪崎弥生、酒向治子、大学生の男女共習授業の効果、日本体育学会第 63 回大会、2012 年 8 月 22 日、東海大学湘南キャンパス

水村真由美、酒向治子、猪崎弥生、中学校で行われるダンス授業の活動量、日本体育学会第 64 回大会、2013 年 8 月 29 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス

酒向治子、公開シンポジウム「ダンス授業におけるジェンダーを考える-多様性の捉え方をめぐって-」(招待講演) 2013 年 10 月 6 日、お茶の水女子大学

酒向治子、田中俊之、猪崎弥生、男性教員と教員志望学生のダンスに対する意識、第 65 回舞踊学会大会、2013 年 12 月 7 日、愛知県芸術文化センター

〔図書〕(計 1 件)

Guest、Ann Hutchinson and Curran、Tina、2008、*Your Move*、New York: Routledge.
(= 2015、森田玲子・酒向治子訳、『ダンスの言語-動きを読む・書く・表現する-』大修館書店.)

〔その他〕

ホームページ

<http://hakuton.jp>

支援教材 DVD

(1)2014 年 3 月「リズム系ダンスのための、新しい支援教材①～白桃ダンス～」

(2) 2015 年 3 月「リズム系ダンスのための、新しい支援教材①～白桃ロック～」

TV 放送

2014 年 5 月 2 日(金)JSC テレビせとうち News

2014 年 5 月 23 日(金)KSB(瀬戸内海放送)スーパーJチャンネル

2015 年 6 月 12(金)OHK テレビ「なんしょん」

新聞報道

2014 年 5 月 14 日(水)、毎日新聞、「白桃」で簡単ダンス教材 岡山大学准教授ら 指導悩む教員向け

2014 年 5 月 15 日(木)読売新聞、中学体育楽しく教えて 特産・白桃ダンス考案

2014 年 5 月 15 日(木)山陽新聞、中学体育で白桃ダンス 授業支援へ岡山大考案 希望校に教材配布

6. 研究組織

(1)研究代表者

三戸 治子(酒向 治子)(MITO/SAKOU HARUKO)

岡山大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：70361821

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：